

教科名	社会 (歴史的分野) (公民的分野)	週時間数	4時間	学年	3年
使用教科書 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書 新しい社会歴史(東京書籍)、新しい社会公民(東京書籍) ・副教材:歴史資料集(新学社) ・ワーク 歴史の自主学习2・3(新学社)、公民の自主学习(新学社) 				

教科のねらい	<p>社会科では、多面的・多角的な見方や考え方ができる学習の場として、生徒の「主体的に学ぶ姿勢」「思考力・判断力・表現力」を育むことを目指して学習をしていきます。また、基礎的な知識を身につけるとともに、他国の文化や伝統を尊重できる国際人としての自覚を身につけることも目指していきます。</p>		
授業の進め方	<p>授業は教科書を中心に進め、プリントとPCを併用していきます。プリントでは基本的な用語を確認したり、自分の意見を書きましょう。PCは資料を見たり、意見をまとめたり、仲間と協働したりするときに用います。</p>		
定期考査	出題方針	<p>授業で学習したことを中心に問題を出題し、観点別に問題を出題します。教科書の内容を覚えるだけではなく、資料を読み取る力・思考力・表現力や受験レベルの問題を解く応用力も必要となります。</p>	
	範囲 (予定)	1学期中間	近世の日本、開国と近代日本の歩み
		1学期期末	二度の世界大戦と日本
		2学期中間	現代の日本と世界、現代社会と私たち
		2学期期末	個人の尊重と日本国憲法、現代の民主政治と社会
		学年末	私たちの暮らしと経済、地球社会と私たち
	知識・技能	定期テスト	
思考力・判断力・表現力	定期テスト、課題への取り組み		
主体的に学習に取り組む態度	振り返り、提出物・課題への取り組み方		
学習方法 (先生からの アドバイス等)	<p>ワークなどを何度も繰り返し学習することが大切です。用語がある程度覚えられたら、物事の理由や根拠・目的・関連性などを考えながら学習していくことにより、より深く学習することができます。意味のある学習にし、これからの人生に役立てるような社会の学習にしていきたいと思います。知識をこれからの生活に生かすためにどう活用していくかを鍛えていきたいと思います。</p>		

学期	月	単元	学習内容	学習のポイント
1	4	○開国と近代日本の歩み	・欧米の進出と日本の開国 ・明治維新	・開国が日本に与えた影響について学習する。 ・立憲国家の成立を目指した日本が行った、近代化の改革について理解する。
	5	○二度の世界大戦と日本	・日清・日露戦争と近代産業 ・第一次世界大戦と日本 ・大正デモクラシーの時代 ・世界恐慌と日本の中国侵略	・欧米列強の動きと関連付けて、日清・日露戦争と近代産業の発展について理解する。 ・第一次世界大戦後の世界の動きや変化について理解する。 ・日本で民主主義の風潮がひろまった背景やそれによる社会の変化を理解する。 ・世界恐慌が世界や日本に与えた影響について理解する。
	6		・第二次世界大戦と日本 ・戦後日本の出発 ・冷戦と日本の発展 ・新たな時代の日本と世界	・第二次世界大戦の始まりと日本が参戦した背景について理解する。 ・戦後の民主化について学習します。 ・冷戦の中で発展した日本について理解する。
	7	○現代の日本と私たち ○現代社会と私たち	・現代社会の特色と私たち	・少子高齢化、情報社会など現代社会の特徴について理解する。
2	9		・私たちの生活と文化 ・現代社会の見方や考え方	・伝統文化など私たちの生活に根付いている文化や新しい文化について理解する。 ・社会のなかで他者と生活していくために必要な考え方について理解する。
	10	○個人の尊重と日本国憲法	・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障	・日本の憲法に明記されているいろいろな人権について理解する。 ・「新しい人権」について理解する。
	11	○現代の民主政治と社会	・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち	・民主政治や三権分立について理解する。 ・地方自治の仕組みや課題について理解する。
	12	○私たちの暮らしと経済	・消費生活と市場経済	・消費と経済の関係や、消費者の権利について理解する。
3	1		・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉 ・これからの経済と社会	・株式会社の仕組みや労働について理解する。 ・物価の決め方や物価と金融の関係について理解する。 ・日本の財政や社会保障制度について学習します。公害問題などの、経済と私たちの生活との関連について理解する。
	2	○地球社会と私たち	・国際社会の仕組み ・様々な国際問題 ・これからの地球社会と日本	・領土問題や国際組織について学習することで、国際社会の様々な仕組みについて理解する。 ・様々な国際問題を解決するために、世界各国が協力していることを理解し、持続可能な社会の実現のために自分たちができることを考える。
	3	○3年間の復習		